

1 次の問題に答えましょう。

(1) $\frac{5}{7} - \frac{2}{3} = \frac{15}{21} - \frac{14}{21} = \frac{1}{21}$

通分をしたときの分子を間違えないように気をつけましょう。

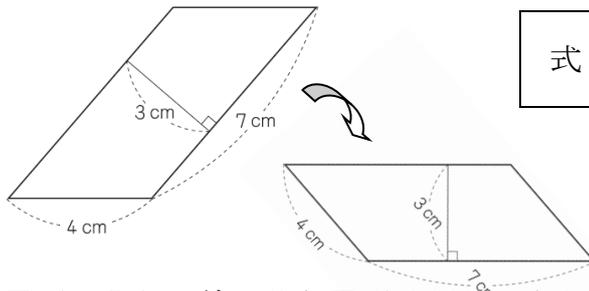
(2) $12 \div 0.6 = (12 \times 10) \div (0.6 \times 10) = 120 \div 6 = 20$

わられる数とわる数に10をかけて、整数同士のわり算にしましょう。

(3) 十万四百八 を数字で書きましょう。

(1)	$\frac{1}{21}$
(2)	20
(3)	100408

2 下の平行四辺形の面積を求める式と答えを書きましょう。

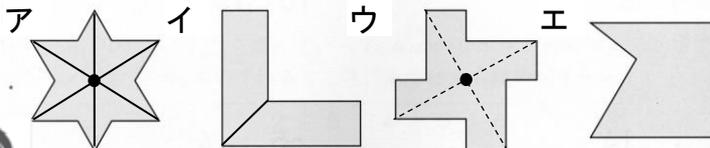


式	7×3	
答え	21	cm ²

垂直に交わる直線に注目すると、底辺と高さが見つかるね。



3 下の図形のうち、線対称な図形はどれですか。また、点対称な図形はどれですか。すべて選び、記号で答えましょう。



線対称な図形	ア, イ
点対称な図形	ア, ウ



対称の軸を直線で、対象の中心を点で表すと、図のようになるよ。イは、図に示した直線を見つけるのがむずかしいね。

4 次の(1)から(5)の問題について、答えを求める式はどれですか。

下の の①から⑤までの中からあてはまる式を選び、その番号を書きましょう。(同じ番号を何回選んでもよいです。)

- (1) 砂糖を0.6kg買って、210円はらいました。この砂糖1kgのねだんはいくらでしょう。
- (2) 210kgの大豆を0.6kgずつふくろにつめます。大豆を全部つめるには、ふくろはいくついるでしょう。
- (3) 1mのねだんが210円のリボンを買いました。リボンの代金はいくらでしょう。
- (4) 赤いテープと白いテープがあります。赤いテープの長さは、210cmです。赤いテープの長さは、白いテープの長さの0.6倍です。白いテープの長さは何cmでしょう。
- (5) オレンジジュースとリンゴジュースがあります。オレンジジュースが、210mLあります。リンゴジュースのかさは、オレンジジュースのかさの0.6倍です。リンゴジュースのかさは、何mLでしょう。

(3)(5)は、 $210 \times 0.6 = (\text{求める数量})$ となり、(1)(2)(4)は、 $(\text{求める数量}) \times 0.6 = 210$ となるから、 $210 \div 0.6 = (\text{求める数量})$ となるね。

① $210 + 0.6$	② $210 - 0.6$	③ 210×0.6
④ $210 \div 0.6$	⑤ $0.6 \div 210$	

(1)	④	(2)	④	(3)	③	(4)	④	(5)	③
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---

1 次の計算をしましょう。

(1) 0.05×0.8
 $= 0.05 \times 8 \div 10 = 0.4 \div 10 = 0.04$

(2) $4.5 \times 3.6 = 16.2$

(3) $0.4 \div 0.05 = (0.4 \times 100) \div (0.05 \times 100)$
 $= 40 \div 5 = 8$

(4) $1.2 \div 4.8 = 12 \div 48 = 0.25$
 (わりきれぬまで計算しましょう)

$$\begin{array}{r} 4.5 \\ \times 3.6 \\ \hline 270 \\ 135 \\ \hline 16.20 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 0.25 \\ 48 \overline{) 12.0} \\ \underline{96} \\ 240 \\ \underline{240} \\ 0 \end{array}$$

(1)	0.04
(2)	16.2
(3)	8
(4)	0.25

2 次の量を()の単位で表しましょう。

(1) 1 ha (a) $1\text{ha} \times 100 = 100\text{a}$

(2) 200 g (kg) $200\text{g} \div 1000 = 0.2\text{kg}$

(3) 3.2 L (cm³) $3.2\text{L} \times 1000 = 3200\text{mL} = 3200\text{cm}^3$

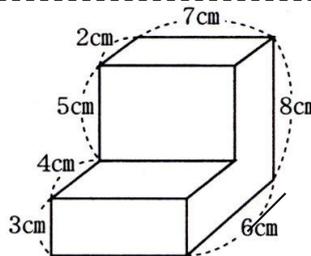
(4) 1.05 km (m) $1.05\text{km} \times 1000 = 1050\text{m}$

(1)	100 a
(2)	0.2 kg
(3)	3200 cm ³
(4)	1050 m

「キロ」はある量の1000倍を表す言葉であり、「ミリ」は1000分の1を表す言葉であることに気をつけましょう。

4 右の図の立体の体積を

求めよ。
 右の図のように2つの直方体に分けてからたす方法だと、
 上が $2 \times 7 \times 5 = 70$
 下が $6 \times 7 \times 3 = 126$
 合わせて $70 + 126 = 196$ になるね。



196 cm³

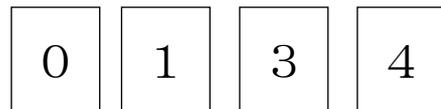
5 右のような4枚のカードがあります。

4枚全部並べて4けたの整数を作ります。

何個できますか。

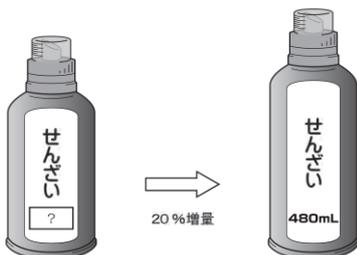


千の位が0にならないように順序よく考えると
 1034, 1043, 1304, 1340, 1403, 1430
 3014, 3041, 3104, 3140, 3401, 3410
 4013, 4031, 4103, 4130, 4301, 4310
 となり、全部で18個できるね。



18 個

5 せんざいを買います。家で使っているせんざいが、20%増量して売られていました。増量後のせんざいの量は480mLです。増量前のせんざいの量は何mLですか。求める式と答えを書きましょう。



式 (例) $480 \div 1.2 = 400$

20%増量ということは
 1.2倍になっていると
 いうことになります。

答え 400 mL

1 次の計算をしましょう。

(1) $1 - \frac{5}{8} = \frac{8}{8} - \frac{5}{8} = \frac{3}{8}$

1を8/8と表して、分母をそろえると計算できます。

(2) $14 \div 0.7 = 140 \div 7 = 20$

わられる数とわる数の両方を10倍しても商は変わりません。

(3) $3 + \boxed{2 \times 4} = 3 + 8 = 11$

かけ算をさきに計算することをわすれないようにしましょう。

2 604 cm は、何mですか。答えを書きましょう。

$604 \div 100 = 6.04$

1mは100cmだから、mに直したいときには100でわります。

3 図アのような、たてが6 m、横が9 mの長方形の形をした花だんがあります。

この中に、たてが3 m、横が5 mの長方形の  の部分があります。

 の部分のまわりにロープをはります。

 の部分のまわりにはるロープの長さは、

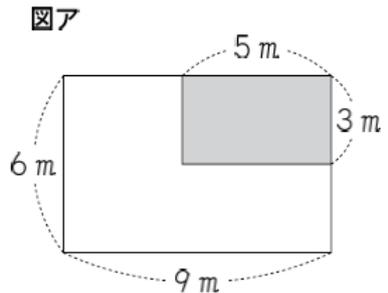
どのような式で求められますか。

下の ① から ⑤ までの中から2つ選んで、その番号を書きましょう。

- ① $5 + 3$
- ② 5×3
- ③ $5 + 3 + 5 + 3$
- ④ $5 \times 3 \times 2$
- ⑤ $(5 + 3) \times 2$

(1)	$\frac{3}{8}$
(2)	20
(3)	11

6.04 m

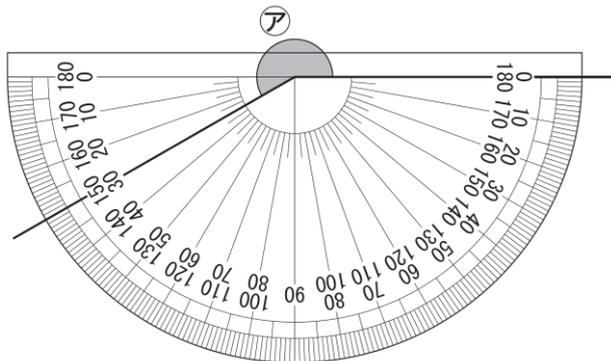


③, ⑤



横、たて、横、たてとたしていくと、 $5 + 3 + 5 + 3$ となるね。
また、横とたての組が2組あると考えると、 $(5 + 3) \times 2$ となるね。

4 ⑦の角の大きさは何度ですか。答えを書きましょう。



アの角度は180°よりおおきくなるね。



210°

- ・30°を使って $180^\circ + 30^\circ = 210^\circ$
- ・150°を使って $360^\circ - 150^\circ = 210^\circ$

1 次の計算をしましょう。

$$(1) 1 - \frac{1}{3} \times 2 = 1 - \frac{2}{3} = \frac{3}{3} - \frac{2}{3} = \frac{1}{3}$$

$$(2) \frac{6}{7} \div \frac{3}{8} = \frac{6}{7} \times \frac{8}{3} = \frac{16}{7} (=2\frac{2}{7})$$

□の中を先に計算します。また、1を3/3として計算しましょう。

(1)	$\frac{1}{3}$
(2)	$\frac{16}{7}$ ($2\frac{2}{7}$)

2 下の整数と分数を、小さい順に左からならべて書きましょう。

$$\left(1\frac{2}{3}, \frac{8}{3}, 2 \right)$$

帯分数や整数を分母が等しい仮分数にすると大きさを比べることができます。

$$1\frac{2}{3} = \frac{5}{3} \quad 2 = \frac{6}{3} \quad \text{だから} \quad 1\frac{2}{3} < 2 < \frac{8}{3}$$

$$\left(1\frac{2}{3}, 2, \frac{8}{3} \right)$$

3 運動場に、たてと横の長さの比が5 : 3のサッカーのミニコートを作ろうと思います。たての長さを40mにすると、横の長さは何mになりますか。

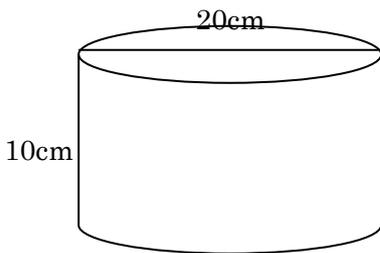
答えを書きましょう。



5 : 3 = 40 : □ 2つの求め方があるね。
 A : 比の1に当たる長さは・・・
 40 ÷ 5 = 8m 8 × 3 = 24m
 B : 横はたての3/5倍の長さだから・・・
 40 × 3/5 = 24m

24 m

4 直径20cm、高さ10cmの円柱の入れ物に、水がいっぱいに入っています。この容積を求めましょう。ただし、円周率は、3.14とします。



式

$$10 \times 10 \times 3.14 \times 10$$

円柱の体積 = 底面の円の面積 × 高さで、円の直径が20cmだから、半径は10cmになります。

3140 cm³

5 A, B, C, D, E, Fの6チームがサッカーの試合をします。どのチームとも1回ずつ試合をするには、試合数は何試合必要ですか。

答えを書きましょう

	A	B	C	D	E	F
A		○	○	○	○	○
B			○	○	○	○
C				○	○	○
D					○	○
E						○
F						

15 試合



表や図をかいて調べてみよう。
 この場合は、A-BとB-Aは1試合と考えるから、左の図だと、真ん中のななめ線の右半分だけを数えればいいね。

ゆりえさんたちは、遊園地に行く計画を立てています。

- (1) ゆりえさんとひさこさんは、乗り物券を1人8枚ずつ買う予定です。この遊園地の乗り物と、乗るために必要な乗り物券の枚数は、右の表のとおりです。

乗り物と乗り物券の枚数

乗り物	乗り物券の枚数(枚)
ジェットコースター	5
観覧車	4
ボート	3
ゴーカート	2
コーヒーカップ	1
メリーゴーランド	1

ゆりえ

観覧車	
メリーゴーランド	

 ひさこ

ジェットコースター	
コーヒーカップ	

2人は、まだ乗り物券が残るので、ほかに乗る乗り物を下のようを考えました。2人は、どの乗り物に乗ることができますか。答えを書きましょう。

- ・残りの乗り物券で乗る。
- ・2人とも選んでいない乗り物に乗る。
- ・2人で同じ乗り物に乗る。

ゴーカート

2人が選んでいないボート、ゴーカートのうち、ひさこさんの残り2枚で乗れるほうを選びます。

- (2) としおさんは、乗り物に乗る計画を立てたところ、乗り物券が15枚必要になることがわかりました。

乗り物券と乗り放題券ほうだいけん（フリーパス）の料金は、右の表のとおりです。

次の1～3の券の買い方のうち、乗り物券15枚分の料金がいちばん安くなるのはどれですか。1つ選んで、その番号を書きましょう。

乗り物券		乗り放題券
1枚券 100円	11枚つづり 1000円	1500円

また、その番号の買い方がいちばん安くなるわけを、言葉と数を使って書きましょう。

- 1 1枚券を15枚買う。
- 2 11枚つづりの乗り物券を1つと、1枚券を4枚買う。
- 3 乗り放題券を買う。

それぞれの買い方にいくらかかるかを具体的に調べて、いちばん安いことを説明します。

番号	いちばん安くなるわけ
2	<p>(例) 1枚券を15枚買うと、$100 \times 15 = 1500$で、料金は1500円です。11枚つづりの乗り物券を1つと、1枚券を4枚買うと、$1000 + 100 \times 4 = 1400$で、料金は1400円です。乗り放題券を買うと、料金は1500円です。1500円と1400円を比べると、1400円の方が安いので、11枚つづりの乗り物券を1つと、1枚券を4枚買う買い方が一番安くなります。</p>

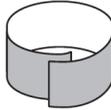
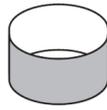
さくらさんたちは、学校の黒板に輪かざりをつけようと思い、先生から折り紙をもらいました。折り紙の枚数は100枚でした。1枚の折り紙からは、折り紙の輪を5個作ることができます。折り紙の輪を30個つなげて、輪かざりを1本作ります。

輪かざり1本の作り方

① 折り紙を同じはばで5に切ります。



② 切った折り紙のはしの部分にのりをつけて、もう一方のはしの部分と重ねてはりあわせると、折り紙の輪が1個できます。

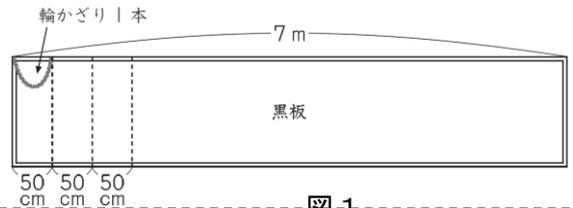



③ 折り紙の輪を次のようにつなげていきます。



④ 折り紙の輪を30個つないだものを、輪かざり1本とします。

さくらさんたちは、図1のように、横の長さが7mの黒板を、50cmずつに区切って、上の部分に輪かざりを1本ずつたるませながらつけようとしています。



(1) 横の長さが7mの黒板の、はしからはしに輪かざりをつけるためには、折り紙の輪を何個必要ですか。そうたさんは、そのわけを、次のように説明しています。

【そうたさんの説明】

黒板の横の長さは7mなので、700cmです。必要な輪かざりの本数は、 $700 \div 50 = 14$ 本です。

【そうたさんの説明】に続くように、折って書きましょう。

情報を整理して考えることが大切です。

はしからはしまでに輪かざりが14本必要です。

1本の輪かざりには、輪が30個つながっています。そうすると、13本全てで使われる輪の数は、 $30 \times 13 = 420$ になります。420個の輪が必要です。1枚の折り紙からは5つの輪を作ることができます。なので、420個の輪を作るためには、 $420 \div 5 = 84$ 枚の折り紙が必要になります。84と100を比べると、84の方が少ないので、100枚あれば足够了。

黒板の横の長さは7mなので、700cmです。黒板のはしからはしまで輪かざりをつけるために必要な輪かざりの本数は、 $700 \div 50 = 14$ で、14本です。

例) 黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の輪の個数は、 $30 \times 14 = 420$ で、420個です。黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数は、 $420 \div 5 = 84$ で、84枚です。だから、折り紙の枚数は、100枚あれば足够了。

もらった折り紙は、赤、青、黄、緑の4色が、それぞれ同じ枚数ずつありました。さくらさんは、折り紙の輪を、右の図2のように、赤、青、黄、緑の順にくり返しつなげて、輪かざり1本を作ってみました。

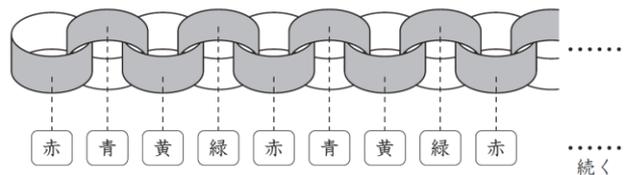


図2

(2) 右上の図2のように、1個目の折り紙の輪かざり1本を作ったとき、30個目の折り紙の輪かざり1本を作ったとき、30個目の折り紙の輪かざり1本を選んで、その番号を書きましよう。

(赤、青、黄、緑)を1つのかたまりとして考えていきましょう。30の輪かざりを4つで分けていくと、(赤、青、黄、緑)のまとまりが7個でき、2つの輪かざりが余ります。余った輪かざりは、(赤、青)です。

- 1 赤 2 青 3 黄 4 緑

月は、地球のまわりを回りながら、地球に近づいたり、はなれたりしています。月の大きさは実際には変わりませんが、月が地球に最も近づいたときに、最も大きく見え、地球から最もはなれたときに、最も小さく見えます。

地球から見える満月を円とみて、最も大きく見えるときの見かけの直径を「最大の満月の直径」、最も小さく見えるときの見かけの直径を「最小の満月の直径」ということにします。

「最大の満月の直径」と「最小の満月の直径」を比べたとき、「最小の満月の直径」をもとにすると、「最大の満月の直径」は約14%長いです。



最も小さく見えるとき (イメージ)

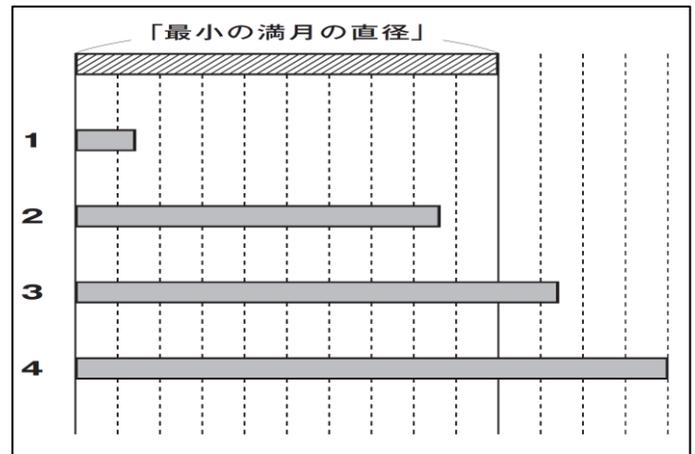


最も大きく見えるとき (イメージ)

- (1) 「最小の満月の直径」を  「最大の満月の直径」を  として、右の図のように表します。

「最小の満月の直径」をもとにして、「最大の満月の直径」が14%長いことを表しているものを、右の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

3



- (2) 月の直径を、硬貨の直径に置きかえて考えます。

硬貨の種類とその直径

(例1) 【番号】 1

【わけ】 最大の満月の直径は $20 \times 1.14 = 22.8$ で、22.8 mmです。
 100円玉の直径との差は $22.8 - 22.6 = 0.2$ で、0.2 mmです。
 500円玉の直径との差は $26.5 - 22.8 = 3.7$ で、3.7 mmです。
 100円玉の直径との差のほうが小さいので、100円玉のほうが近いです。

(例2) 【番号】 1

【わけ】 1円玉の直径をもとにしたとき、100円玉の直径の割合は、 $22.6 \div 20 = 1.13$ です。
 500円玉の直径の割合は、 $26.5 \div 20 = 1.325$ です。1.13と1.325で、割合が1.14に近いのは、1.13の100円玉です。だから、100円玉のほうが近いです。

(例3) 【番号】 1

【わけ】 「最大の満月の直径」を100円玉の直径とすると、「最小の満月の直径」は $22.6 \div 1.14 = 19.82 \dots$ で、約19.8 mmです。「最大の満月の直径」を500円玉の直径とすると、「最小の満月の直径」は $26.5 \div 1.14 = 23.23 \dots$ で、約23.2 mmです。1円玉の直径との差は、それぞれ、 $20 - 19.8 = 0.2$ 、 $23.2 - 20 = 3.2$ です。「最大の満月の直径」を100円玉の直径としたときのほうが、「最小の満月の直径」は1円玉の直径に近いです。だから100円玉のほうが近いです。

平成23年（2011年）に行われたサッカー女子ワールドカップで、サッカー日本女子代表のなでしこジャパンが優勝しました。

- (1) ひろきさんは、ワールドカップ後のなでしこリーグ（日本女子サッカーリーグ）の試合の観客数が増えたのではないかと考えました。そこで、あるサッカー場で行われた平成23年のなでしこリーグの試合の観客数を調べ、右の表にまとめました。

あるサッカー場の試合数と観客数

	試合数 (試合)	観客数の合計 (人)	1試合あたりの観客数 (人)
ワールドカップ前	2	約 2200	約 1100
ワールドカップ後	3	約 33000	

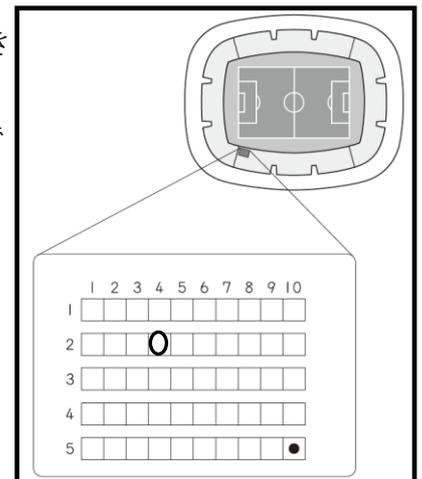
ワールドカップ後の1試合あたりの観客数は、ワールドカップ前の1試合あたりの観客数の約何倍になっていますか。求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

<求め方> (例) まず、ワールドカップ後の1試合あたりの観客数を求めるために、観客数を試合数でわります。 $33000 \div 3 = 11000$ で、約11000人になります。次に、約何倍になっているかを求めるために、ワールドカップ後の1試合あたりの観客数をワールドカップ前の1試合あたりの観客数でわります。 $11000 \div 1100 = 10$ で、約10倍になります。 答え 約 10 倍

- (2) サッカーに興味をもったひろきさんは、試合を見に行きました。ひろきさんは、2列4番の席を探しています。

右の図の●の席は5列10番でした。2列4番はどの席ですか。解答用紙のあてはまる席に○をかきましょう。

5列10番が上から5列目、左から10番目なので、同じように考えます。



- (3) ひろきさんは、町内のサッカー大会に参加しました。町内には、東、西、南、北の4つのチームがあり、ひろきさんのチームは北チームです。1つのチームは、ほかのチームと2試合ずつ行い、全部で6試合しました。順位を決め方は下のとおりです。

順位決め方

- 勝ち点の合計が高いチームを上順位にします。
- 勝ち点は、1試合ごとに、勝つと3点、引き分けると1点です。

勝ち点の合計を求める式

「 $3 \times$ 勝った試合の数 $+ 1 \times$ 引き分けた試合の数」

- 勝ち点の合計が同じときは、勝った試合の数が多いチームを上順位にします。

試合結果は下の表のとおりです。北チームの順位は何位ですか。「勝ち点の合計を求める式」をもとに式を書き、勝ち点の合計と順位を書きましょう。

試合結果

チーム	勝った試合の数	引き分けた試合の数	負けた試合の数	勝ち点の合計(点)
東	2	4	0	10
西	1	2	3	5
南	2	2	2	8
北	3	0	3	

合計を求める式に、勝ち数3、引き分け数0を当てはめて式を書き、計算しましょう。

式	(例) $3 \times 3 (+ 1 \times 0)$
合計	9 点 順位 2 位

小学6年 算数 9

解説シート

A小学校とB小学校の図書委員会は、協力して読書活動をすすめています。右の資料は、4月から7月までの4か月間の、各学校の本の貸出冊数の様子をまとめたものです。

A小学校の図書委員たちは、右の表1の の部分を見て、次のように話し合っています。

4月から7月までの4か月間の 各学校の 本の貸出冊数の様子

表1「各学校の月ごとの貸出冊数（冊）」

学校\月	4月	5月	6月	7月	合計
A小学校	986	2918	3414	2420	9738
B小学校	849	2523	2938	2095	8405

表2「A小学校の本の種類ごとの貸出冊数（冊）」

物語	科学	歴史	伝記	その他	合計
3800	1977	1496	989	1476	9738



どちらの学校の子どものほうが本をよくか
りているかな。



各学校の貸出冊数の合計で比べると、A小学校のほうが多いです。だから、A小学校だと思います。

まこと



私は、どちらの学校の子どものほうが本をよく借りているのかを、各学校の1人あたりの貸出冊数で比べたいです。1人あたりの貸出冊数を求めるためには、各学校の貸出冊数の合計のほかに、何を調べたら良いかな。

あさ子

(1) あさ子さんのように、各学校の1人あたりの貸出冊数を求めるためには、表1の の各学校の貸出冊数の合計のほかに、どのような数が必要ですか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

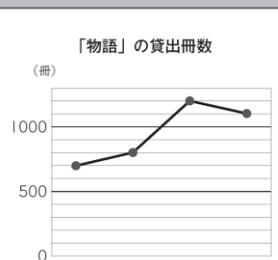
- 1 各学校の、図書館を利用した人数
- 2 各学校の、学校全体の児童の人数
- 3 各学校の、図書館にある本の冊数
- 4 各学校の、本の種類ごとの貸出冊数

2

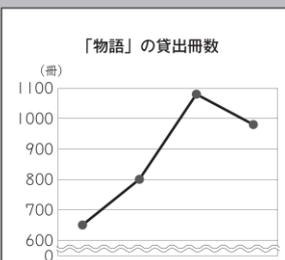
(2) 各学校の図書委員達は、読書活動をすすめた成果を表すために、4月から7月までの4か月間の「物語」の貸出冊数の変化の様子を、それぞれ折れ線グラフにまとめました。

けんたさんは、右の2つのグラフの、5月

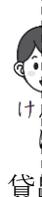
A小学校 図書委員会だより



B小学校 図書委員会だより



次の① ② ③のすべてを書きましょう。



- ① A小学校の5月から6月までの「物語」の貸出冊数が、約400冊増えていること
- ② B小学校の5月から6月までの「物語」の貸出冊数が、約300冊増えていること
- ③ A小学校に比べてB小学校の方が、5月から6月までの「物語」の貸出冊数の増え方は大きくないこと

貸

(正答例) 5月から6月までの「物語」の貸出冊数は、A小学校が約400冊増えている、B小学校が約300冊増えています。だから、A小学校に比べてB小学校の方が、5月から6月までの「物語」の貸出冊数の増え方は大きくないです。

1 から 9 までの数が書かれたカードが 1 枚ずつあります。



この中から 2 枚のカードを選んで、次のような 2 けたのひき算の答えについて考えます。

カードを使った 2 けたのひき算

選んだ 2 枚のカードを並べて、2 けたの整数を 2 つつくり、大きい数から小さい数をひきます。
 例えば、**1** と **9** を選んだ場合、**19** と並べると 19 がつくれます。**91** と並べると 91 がつくれます。

2 けたのひき算の式 $91 - 19$

2 けたのひき算の答え 72

選んだ 2 枚のカードに書かれた数どうしの差を、「カードの差」と呼ぶことにします。例えば、**1** と **9** の 2 枚のカードの差は 8 です。

あやかさんは、カードの差が 1、2、3 の場合について、すべての選び方で 2 けたのひき算をしました。

カードの差が 1 の場合	カードの差が 2 の場合	カードの差が 3 の場合
$21 - 12 = 9$	$31 - 13 = 18$	$41 - 14 = 27$
$32 - 23 = 9$	$42 - 24 = 18$	$52 - 25 = 27$
$43 - 34 = 9$	$53 - 35 = 18$	$63 - 36 = 27$
$54 - 45 = 9$	$64 - 46 = 18$	$74 - 47 = 27$
$65 - 56 = 9$	$75 - 57 = 18$	$85 - 58 = 27$
$76 - 67 = 9$	$86 - 68 = 18$	$96 - 69 = 27$
$87 - 78 = 9$	$97 - 79 = 18$	
$98 - 89 = 9$		



あやか

カードの差が 1、2、3 の場合、2 けたのひき算の答えは、それぞれ 9、18、27 になっています。

(1) カードの差が 4 の場合、2 けたのひき算の式を 1 つ書きましょう。また、答えも書きましょう。

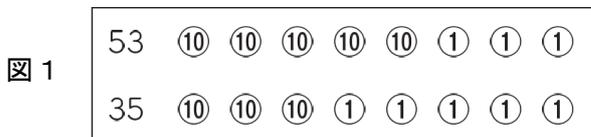
$62 - 26$ 、 $73 - 37$ 、 $84 - 48$ 、 $95 - 59$ でも正答です。	式 (例) $51 - 15$	答え 36
--	-----------------	-------

あやかさんは、カードの差が 2 や 3 の場合に、2 けたのひき算の答えがそれぞれ 18、27 になることを、次のように図を使って考えました。

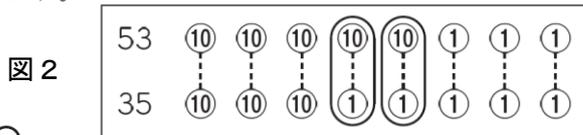
【あやかさんの考え】

カードの差が 2 の **3** と **5** を選んだ $53 - 35$ の場合

53 を 10 が 5 つと 1 が 3 つ、35 を 10 が 3 つと 1 が 5 つとみて、図 1 のように表しました。図の中の⑩は 10 を、①は 1 を表しています。



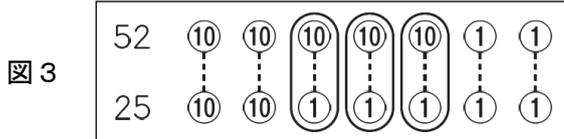
53 から 35 をひくと、残るのは図 2 の  の部分です。1つの  は $10 - 1$ 、つまり 9 を表しています。



 の部分が 2 つ残るから、2 けたのひき算の答えは 9×2 で、18 になります。

カードの差が 3 の  と  を選んだ $52 - 25$ の場合

カードの差が 2 の場合と同じように考えます、52 から 25 をひくと、残るのは図 3 の  の部分です。



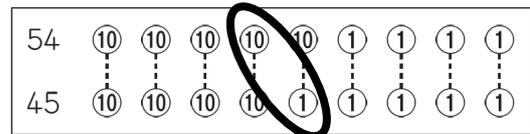
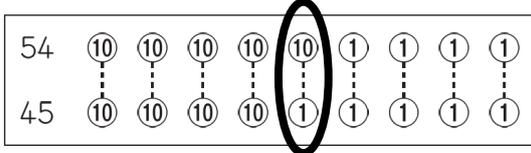
 の部分が 3 つ残るから、2 けたのひき算の答えは、 9×3 で、27 になります。

(2) カードの差が 1 の場合、2 けたのひき算の答えが 9 になることを【あやかさんの考え】と同じように考えます。

 と  を選んだ $54 - 45$ の場合では、どこが残りますか。下の図に  を書きいれましょう。

下のように 54 の  と 45 の  を囲んでいるもの

右以外で、54 の  と 45 の  を 1 つずつ囲んでいるもの



(3) そうたさんは、カードの差が 1、2、3 の場合の 2 けたのひき算の答えを、下のように入れました。



カードの差が 1 の場合、2 けたのひき算の答えは 9 です。
 カードの差が 2 の場合、2 けたのひき算の答えは 18 です。
 カードの差が 3 の場合、2 けたのひき算の答えは 27 です。
 カードの差がわかれば、2 けたのひき算の答えはかけ算で簡単に求めることができます。

そうたさんが言うように、カードの差を使って、2 けたのひき算の答えをかけ算で簡単に求めることができるきまりがあります。

このきまりを、言葉と数を使って書きましょう。

そのとき、「カードの差」、「2 けたのひき算の答え」の 2 つの言葉を使いましょう。

例 1 カードの差に 9 をかけると、2 けたのひき算の答えになります。

例 2 カードの差が 4 のとき、9 をかけて、2 けたのひき算の答えは 36 になります。

例 3 カードの差が 1 増えるごとに 2 けたのひき算の答えは 9 ずつ増えます。

次の ① ② ③の全てを書き、「カードの差」が与えられているときに「2 けたのひき算の答え」が 1 つに定まるきまりを書きましょう。

① 「カードの差」、「2 けたのひき算の答え」の言葉

② 「カードの差」と「2 けたのひき算の答え」の例から見いだせる数の「9」

③ 「カードの差」、「2 けたのひき算の答え」、「9」の関係を乗法で表現している言葉や式